

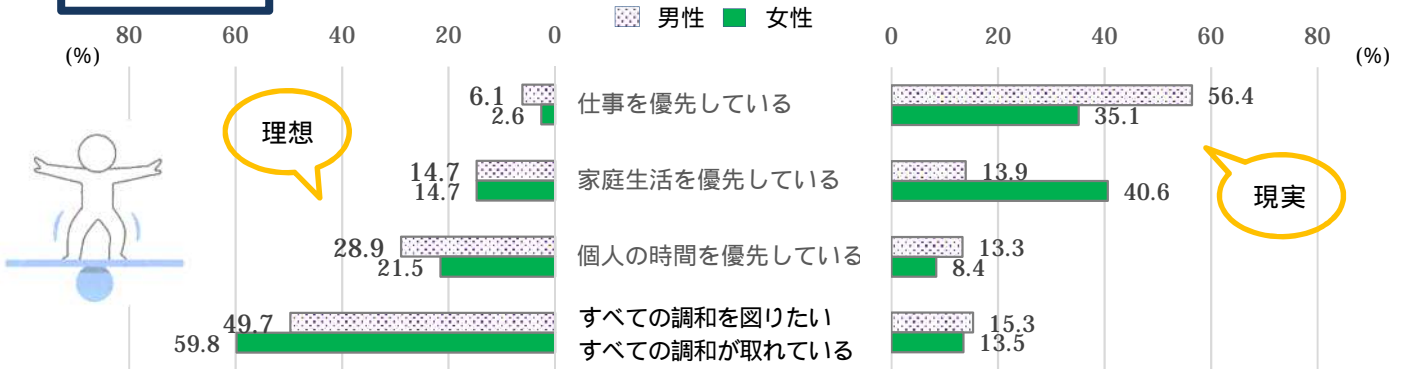


しごと 家庭生活 個人の時間

## 生活のバランス、考えてみませんか？



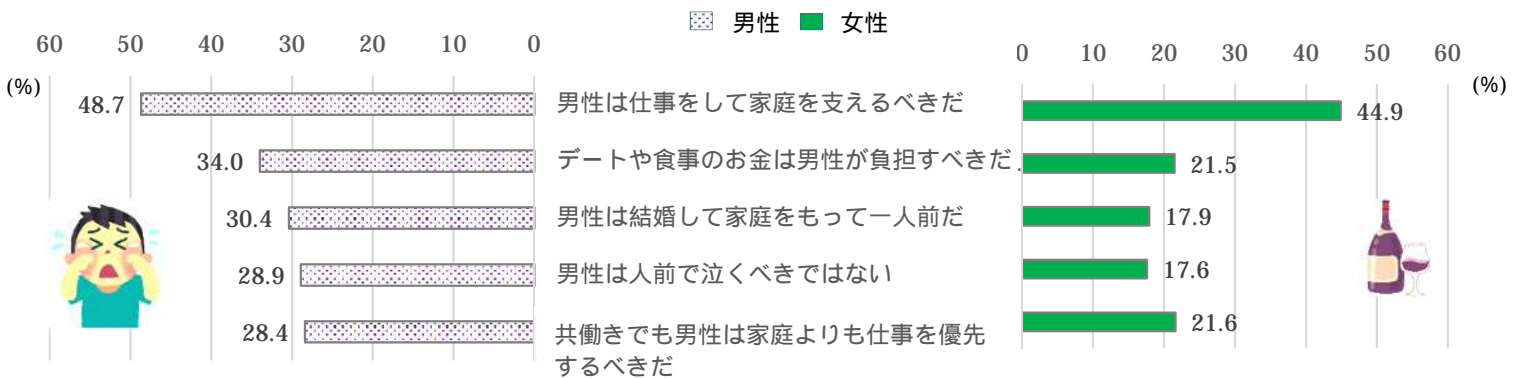
### 理想と現実



令和5年「人権・男女共同参画に関する意識と労働実態調査」から

男性も女性も理想は、「すべての調和が取れている」生活を理想とする回答が最も多いのですが、現実には、家庭生活に時間を取られている女性、仕事を最優先している男性の姿がみえてきます。

### 「男は～べきだ」 男性の思い込み



国が行った「性別による無意識の思い込みに関する調査」(令和4年度)では、男性も女性も「男性は仕事をして家庭を支えるべきだ」が1位となっています。いまだ「男は～べきだ」「男はこうあらねばならない」に男性も女性もとらわれているのではないのでしょうか。かつて男性は、学校を卒業して、就職をして、結婚をして、家族を養い、同じ職場で四十数年間働き続ける人が大多数でした。いまは、生き方も多様化しています。それでも男性はかつての「おとこ」の呪縛から逃れられないと言われます。

BOOK

### パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ!

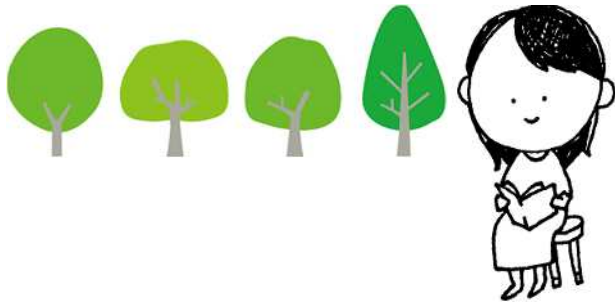
ママの社会進出と家族の幸せのために

前田晃平 著

光文社 2021

出産前は、そこそこ仲の良かった夫婦が、出産後は夫婦げんかが激増。「俺はこんなに頑張っているのに」。それはひとえに自分のパパとしての自覚不足だったと著者は言う。本書のテーマである「パパの家庭進出」は単に家事を頑張る、ということだけではない。その真の意味は、社会に向ける視点のアップデートだ。ママの視点で見れば世界は一変する!





### 自分のために料理を作る

山口祐加著  
晶文社 2023

スーパーに並ぶおいしそうなお惣菜。これから、料理はますます「自分でやらなくていい家事」になっていくのかもしれない。料理が複雑で煩わしいものと、私たちが思い込んでいるのはなぜか。「自分のために料理ができない」と悩む人たちに3か月間自炊を教え、気持ちの変化を記録。



### 男尊女卑依存症社会

斎藤章佳著  
亜紀書房 2023

日本では痴漢、アルコール等依存症に苦しむ人が増え続けているという。そこには男尊女卑の価値観に依存した社会の生きづらさから、その苦痛を緩和するために何かの依存症になるという構図が見えてくる。依存症回復に多く関わってきた著者が考える男尊女卑依存症の回復法とは？



### 女子が一生食べていける仕事選び

上田晶美著  
草思社 2023

これから仕事を探そうと思っている方へ。働くことの楽しさを知ってほしい。会社を辞めることがあっても仕事はやめないで。やりたい仕事の探し方、未来に有望な仕事は何か、応募の書類の書き方、面接でのアピール法まで役立つ情報満載。



## 男性のための性暴力被害ホットライン



性被害は性別にかかわらず誰にでも起こりえます。どんな場合であっても、あなたは、悪くありません。

- 「男性が被害に遭うはずがない」
- 「男性なら抵抗できるはず」
- 「男性が被害に遭うのは恥ずかしい」

これらは間違った思い込みです。からだが反応したとしても、それは自然な生理反応であり、あなたの気持ちとは、関係ありません。

性的な行為に同意したという証しではありません。ひとりで悩まずご相談ください。

その他相談先



フリーダイヤル 0120-213-533

相談受付日時 毎週土曜日 19:00~21:00

ホットラインでは、あなたが不安に思っていること、心配していること、迷っていることをお聞きし、一人ひとりの状況に応じて、安心できる方法を一緒に考えます。支援を受けられる機関についても情報提供します。匿名でも相談できます。秘密は守ります。



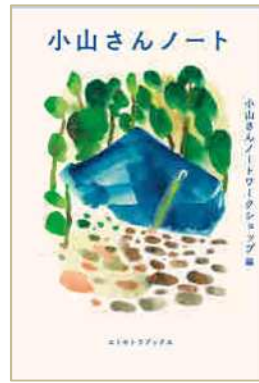
内閣府男女共同参画局 HP から（抜粋）



### 恋愛結婚の終焉

牛窪恵著  
光文社 2023

なぜ、少子化が止まらないのか。今、恋愛は面倒だが結婚はしたい若者も多く存在する。「おひとりさま」という言葉を世に広めた著者が、恋愛・結婚・出産という三位一体の昭和の考えを捨て、結婚には恋愛は必要なく、誰かと共に作りあげていく「共創結婚」という概念を提案する。



### 小山さんノート

小山さんノートワークショップ編  
イトセトラブックス 2023

「テント村」で暮らしていた「こやまさん」と呼ばれる女性が遺したおよそ80冊のノート。これは世に出すべきだという思いに共感したワークショップのメンバーが、8年をかけて丹念に抜粋。壮絶な日々を書くことで生きようとした小山さんの思いが伝わる。



### 射精責任

ガブリエル・ブレア著  
太田出版 2023

「望まない妊娠」をして責められるのはなぜ女性だけ？「望まない妊娠」はどうして起こるのか。望まない妊娠による中絶と避妊を根本から問い直す28の提言。インパクトのあるタイトルだが、中身は、なるほど、と思うことばかり。



### ぼっちな食卓

岩村暢子著  
中央公論新社 2023

「食卓」を定点観測の場として綿密な調査をした結果を記している。ある家庭は子どもに厳しく躾をし、ある家庭は子どもの自立のために好きなものを選んで食べさせる。10年後、20年後、それぞれどんな家族になっていたのか。現代の「個」を優先する家族の風景が見える。

書名	著者名	発行
ジェンダー平等を実現する法と政治	辻村みよ子、齊藤笑美子	花伝社
職場で使えるジェンダー・ハラスメント対策ブック	小林敦子	現代書館
ジェンダー格差	牧野百恵	中央公論新社
慣れる、おちょくれ、踏み外せ	森山至貴、能町みね子	朝日出版社
「発達障害」と間違われる子どもたち	成田奈緒子	青春出版社
なぜ男女の賃金に格差があるのか	クラウディア・ゴールドフィン	慶應義塾大学出版会
男が男を解放するために	杉田俊介	Pヴァイン
離れていても家族	品田知美[ほか]	亜紀書房
男性の性暴力被害	宮崎浩一、西岡真由美	集英社
家で死ぬということ	石川結貴	文藝春秋
見えないから、気づく	浅川智恵子	早川書房
リスペクト	ブレイディみかこ	筑摩書房



こちらから、蔵書目録や新着図書一覧がご覧いただけます。どうぞご利用ください。

### 図書室利用案内

はじめてご利用の方は、名前や住所を確認できるものをお持ちの上、利用登録のお手続きをお願いいたします。貸出冊数は6冊まで、貸出期間は4週間です。本の返却期限をお守りください。また、汚損された本が多くなってきました。本を大切に扱ってくださいますようお願いいたします。



## 不登校・いじめ 最多

令和4年度の問題行動・不登校調査(文部科学省)で、全国の小中学校で不登校だった児童生徒が、前年度より22.1%増の29万9,048人となり、過去最多だった。コロナ禍で生活リズムが乱れやすかったことなどが影響した可能性があるという。小中高校などで認知したいじめも68万1,948件で、過去最多だった。

## 東京都 出生率 全国最下位

令和4年の「合計特殊出生率」は都内で1.04だった。全国の合計特殊出生率は1.26で、都道府県別で都は最下位となった。都の婚姻件数は、全国最多の7万5,179組、離婚件数は1万9,255組。平均初婚年齢は夫32.3歳、妻30.7歳で、全国で最高齢だった。

## 子どもの性被害 相談窓口開設

東京都は性被害にあった子どもやその保護者専用の電話相談窓口「子供・保護者専用性被害相談ホットライン」を開設。臨床心理士や看護師が24時間365日体制で相談を受け付ける。都内からは0120-333-891(無料) 都外からは03-6811-0850(有料)

## 東京都初、結婚・子供に関する若年層調査

都は6月、LINEを使って都内在住の若年層1,000人を対象に、初の結婚・子供に関する意識調査を実施した。「結婚に前向き」は8割、「子どもがほしい」は7割の人が回答。また、「暮らしに満足している」と答えた人のうち、「子どもがほしい」と答えた人は74%、満足していない人では45%まで下がった。

## 最高裁 性別変更「手術要件」は違憲

生殖機能をなくす手術を性別変更の事実上の要件とする性同一性障害特例法の規定が、憲法違反かどうか争われた家事審判で、最高裁は「規定は違憲で無効」とする司法判断を示した。海外では同種規定を撤廃する動きが主流だ。今後法務省は特例法の改正を検討する。

## 緊急避妊薬 試験販売開始

望まない妊娠を防ぐ緊急避妊薬(アフターピル)の試験販売が全国145か所の薬局で開始された。処方箋は不要で16歳以上の女性が購入可(16.17歳は保護者同伴)。研修を受けた薬剤師が夜間・休日に対応、近隣の産婦人科や性暴力等被害者支援機関との連携が条件。価格は7,000~9,000円程度。

## 若年がんの8割を女性が占める

国立がん研究センターと国立成育医療研究センターの調査によると、20~39歳の若年がんの約8割を女性が占めているという。特に乳がんや子宮頸がんが多かった。小児や15~39歳の思春期・若年(AYA)世代のがん患者のデータを集計した両センターは、がん検診やヒトパピローマウイルスワクチンの接種によって予防することが引き続き重要としている。

## 梅毒感染者急増

東京都感染症情報センターが公開した、性感染症の一つである「梅毒」の今年の感染者数(速報値)が、全国で1万3,251人となり、集計始まって以来3年連続過去最多を更新した。感染した妊婦から胎児にうつる「先天梅毒」も10月時点で32人と最多となった。

## 高校入試 月経痛、追試対象に

文部科学省は、月経痛や月経前症候群で高校入試を欠席した場合、追試験の対象とするよう求める通知を年内に都道府県教育委員会などに出す予定。

## 妊産婦らに10万円支給を制度化

妊娠時から子育て家庭への切れ目ない支援のため、妊産婦らに10万円相当を支給する事業を令和7年度から制度化する方針をこども家庭庁が固めた。「妊婦のための支援給付(仮称)」を創設し、定期的な面談を行う「伴走型相談支援」も恒久化する方針。

## 東京都 男性の育休取得率

東京都が実施した「男性の家事・育児実態調査」によると、都内在住の男性の育休取得率は47.6%だった。子どもが0歳児では58%、1~2歳児では51.5%。

## AV救済法の認知度が1割

内閣府が2月に実施した性暴力に関するアンケートで、出演契約の解除権などを定めたアダルトビデオ(AV)出演被害防止・救済法について、15~39歳の女性の認知度が1割だったことが分かった。内閣府の担当者は「SNSなど、若者がよく使う媒体での周知に努めたい」としている。

## 練馬区 給食に幻の伝統野菜「練馬大根」

練馬区では、12月4日、伝統野菜として全国に名を馳せた、練馬大根を使った学校給食を全区立小中学校98校で提供した。使用された練馬大根は、今年で17年目を迎え、前日に行われた「練馬大根引っこ抜き競技大会」で収穫されたもの。相当な労力を要する練馬大根の収穫を競技大会にすることで参加者に楽しんでもらい、練馬大根の魅力を区内に発信している。あわせて、練馬大根を学校給食として地域の子どもたちに提供し、食育を推進していくことも目的としている。

## 理系女性の割合 日本最下位

OECD(経済協力開発機構)は令和3年時点の「STEM」(科学・技術・工学・数学)分野の卒業・修了生に占める女性の割合を調査し、公表。日本は令和2年度分を報告したが、平均を大きく下回り、加盟38か国で最下位だった。OECDは、「理工系分野で働く女性のイメージをよくする必要がある」と指摘した。